



FSERC News No. 69

編集・発行：京都大学フィールド科学教育研究センター
 住所：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
 TEL：075-753-6420 FAX：075-753-6451
 URL：https://fserc.kyoto-u.ac.jp

2026年6月

社会連携ノート

第10回 森里海シンポジウムを開催

社会連携委員長 市川 光太郎

京都大学フィールド研と公益財団法人イオン環境財団は、森里海連環学を通じた持続可能社会の創成をめざして、第10回 森里海シンポジウム「身近な自然を見つめなおす ～ネイチャーポジティブの実現に向けて～」を2026年3月25日に北部総合教育研究棟益川ホールにおいてハイブリッド形式で開催しました。会場の参加者は午前に136人、午後は145人で、午後のオンライン配信に110人が参加しました。



ポスターセッションの様子

午前のプレ企画では、全国17校の高校生70人が里山・里海をテーマとした日頃の研究成果を発表しました。発表内容は、水生生物の生態と保全、環境

DNAや流域を通じた生物多様性の調査、資源循環と身近な生物の利活用に関するものなど多岐にわたる熱意あふれるもので、5校に表彰を行いました。

午後のシンポジウムでは、浅野悟史 地球環境学堂准教授から「環境ものさし」で測る身近な生態系をテーマとした基調講演がありました。この講演では地球環境問題による生物多様性の低下と、生物多様性を

回復させるためのスローガンが「ネイチャーポジティブ」であるとの説明があり、地域の皆さまが納得して楽しみながら地域の生態系を見守っていける指



浅野准教授の講演

標として「環境ものさし」を提案されました。続いて、小森優美 株式会社森を織る代表取締役から世界に向けた絹織物文化の発信について、山守瑠奈 助教からジャイアントパンダが食べ残した竹で作った漁礁を利用する多様な海の生物について、八柳哲 特任助教から河川における環境DNA調査と近縁種群の種多様性について、辻田香織 環境省自然環境局課長補佐から生物多様性の損失に対する社会経済の影響やネイチャーポジティブ経済の実現などについて、それぞれ講演がありました。

参加者からは「海や川の生態系に対する関心が高まった」、「里山・里海が日常の身近な存在に思えてきた」といった感想が寄せられ、自身の生活と自然とのつながりを見つめ直す機会となりました。高校生には第一線で活躍する若手研究者の講演や他校の生徒との活発な意見交換を通じて、刺激を得る場になったことと思います。後日、本シンポジウムの報告書を発行し、フィールド研ウェブページで公開する予定です。



高校生の集合写真

パナソニック ホールディングス株式会社と 連携協定を締結



京都大学フィールド研とパナソニック ホールディングス株式会社（以下、パナソニックHD）は、2026年3月11日に、森里海連環学の推進およびネイチャーポジティブの実現に向けた連携協定を締結しました。4月3日には、本協定締結についての記者発表および寄付贈呈式を開催し、館野隆之輔センター長より小川立夫パナソニックHD執行役員へ感謝状を贈呈しました。

本協定を通じて、フィールド研が有する長期的・広域的なフィールド研究の知見および生物多様性および生態系機能の評価手法と、パナソニックHDが保有する企業活動の場を掛け合わせることで、人材育成、研究、社会貢献、自然および生態系の保全における連携を深化させ、研究成果の社会実装や地域への波及効果創出につながる実践的な取り組みを展開して持続可能な社会の発展に寄与することを目指します。

教員紹介

森林情報学分野 特定助教 惣田 彩可

2026年4月1日に教育関係共同利用拠点の特定助教として着任しました。大学院生時代には、1年の半分ほどは芦生研究林に滞在して鳥類を対象とした研究を進め、日本野鳥の会京都支部の有志の方々のご協力のもと、研究林に123種の鳥類が確認されていることを明らかにしました。学生時代に大変お世話になったフィールド研に、教員として貢献できることを嬉しく思っています。今後は、自身の学生目線での研究林利用経験を活かし、研究林・試験地を利用した実習の運営を担当します。

私の専門は行動生態学であり、ミソサザイという小鳥を対象に研究をしています。ミソサザイは鳥類では珍しい一夫多妻制の鳥であり、一部の雄が複数の雌を独占することができます。私は、どのような雄がより多くの雌を独占することができるのか？という問いに対し、雄が非繁殖期の間に繁殖に備えるための行動を

どの程度取るのかに着目して研究を行っています。

フィールド研では、これまでの研究に加えて、鳥類の保全生態学的研究や環境DNAを用いたより効率的な鳥類相調査手法の開発にも取り組んでいく予定です。今後、フィールド研を舞台とした教育研究活動の発展に貢献していきたいと考えています。



基礎海洋生物学分野 特定助教 小井土 凜々子

2026年4月1日に、和歌山県白浜町にある瀬戸臨海実験所の特定助教として着任しました。昨年7月から、「新しい里山・里海 共創プロジェクト」のメンバーとして活動しています。大学院時代は長野県周辺の標高1,250mほどの高原で生活していたため、暖かい海のそ



ばで暮らす現在の環境との違いに驚きつつも、日々新鮮な気持ちで過ごしています。

専門は動物生態学・集団遺伝学です。これまでは主にツキノワグマを対象に、人里で捕獲された個体の組織や体毛などから得られるDNA情報を用いた遺伝解析や、GPS首輪を用いた行動追跡を通して、ツキノワグマの地域個体群の分布や遺伝的特性、人間活動が野生動物の行動や個体群に与える影響について研究してきました。

研究を進める中で、猟友会や行政をはじめとする地域の多様な方々と関わる機会が多くありました。そうした経験を通して、研究を地域に還元していくためには、生態学的な視点だけでなく、地域の暮らしや文化を理解することも大切だと感じるようになり、近年は人と野生動物との関係を軸に研究を進めています。

今後は、フィールド研での新たな出会いを活かしながら研究を発展させるとともに、白浜という環境の中で、森・里・海のつながりにも視野を広げながら研究に取り組んでいきたいと考えています。

2025年4月から特定研究員(学振PD)として、2026年4月より特任助教として舞鶴水産実験所に着任しました。学生時代は北海道で魚類の分類・比較解剖に取り組み、先人たちの残した膨大な文献と標本を見比べ



るインドアな毎日でした。舞鶴に来てからは、新しく仔魚の研究を始めました。魚の一生を通じて生態・形態が最も劇的に変化する浮遊仔魚期を対象に形態発育パターンを調べれば、生態と形態の関わりが何か見えてくるだろう、とぼんやり考えていました。ところが実際は、フィールド調査・サンプル処理・データ解析の技術など身につけなければならないことが山積みでした。教職員や学生の皆さんのサポートに支えられながら試行錯誤の連続です。任期中にどこまで辿り着けるでしょうか。

学部生の頃は全国の大学が実施する公開臨海・臨湖実習に参加し(京大の先生にもお世話になりました)、また院生の頃には一度舞鶴にもお邪魔して乗船調査にも参加しました。こうした経験から、すぐそこで生き物を採ってきて研究できるっていいなあと思っていました。せっかく憧れの環境にきたのですから、魚の多様性と形態の精巧さを記述し尽くすことを目指してこられた先人たちに恥じぬよう、そして次世代の学生にもその魅力を届けていけるよう、教育研究活動に取り組んでいく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

受賞の記録

坪田和也さん(D1)が森林利用学会第32回学術研究発表会において学生優秀論文発表賞を受賞(2025年11月29日、高知大学朝倉キャンパス)

坪田和也・長谷川尚史

「ドローンを用いたSfM解析による広葉樹形状の評価」

広葉樹林内で無人航空機(UAV)により撮影した画像を用いてSfM解析を行い、3次元点群モデルを作成した。さらに、この点群モデルに基づき、非破壊で板材推定を行うシミュレーションプログラムを開発した。地上型レーザースキャナ(TLS)による計測を真値とした場合、SfMで推定した胸高直径(DBH)の二乗平均平方根誤差(RMSE)は0.53cm、幹材積のRMSEは0.002m³であり、DBHおよび幹材積の推定精度は実用上問題ない範囲にあることが示された。また、幹内部をボクセルで充填する手法を導入することで、板材シミュレーション時の計算コストを低減できることも確認した。

日本貝類学会令和8年度大会において宮崎息吹さん(M1)が学生最優秀発表賞、中山凌さんと中野智之准教授が論文賞を受賞(2026年4月18~19日、ホテルシーモア(和歌山県白浜町))

宮崎息吹・山守瑠奈

「カンザシゴカイ共生性腹足類カセンチドリ」の系統と摂

餌生態」

カセンチドリは、貝殻の大きさが5-10mm程度の、小さな笠型巻貝の一種である。今回私たちは、この貝がカンザシゴカイ科多毛類と共生関係にあることを見出し、形態観察、消化管内容物分析、行動観察、安定同位体分析を通して、これらの2者の関係性の解明を試みた。加えて、DNA情報を用いた分子系統解析から、本種が進化的にどのような立ち位置にあり、カンザシゴカイとの共生関係がどのように獲得されたのかについて推測した。

Ryo Nakayama, Tomoyuki Nakano
Selective Settlement of the Planktonic Larvae of the Epizoic Limpet *Lottia tenuisculpta* (Patellogastropoda: Lottiidae). *Venus* 83 (1-4): 111-120.

動物体表性カサガイ類の1種であるコモレビコガモガイについて、浮遊幼生の着底が主要な宿主である巻貝ヒメクボガイの粘液に誘引されることを解明した。この発見は、本種が浮遊幼生の段階で適した宿主を認識している事を示唆しており、海産無脊椎動物における浮遊幼生の着底メカニズムおよび動物体表性という特殊な生態がもつ適応的意義の理解だけでなく、海洋生態系における共生関係の進化についての重要な知見であるといえる。

研究者の異動

3月31日 吉川左紀子特任教授、森林生態系部門の Cathleen Ludivine Petit 特定助教、Nay Lin Maung 特定助教、阿部隆博特定研究員、海洋生態系部門の藤田大樹特定研究員(学振PD)、北海道研究林の渡邊紗織研究員が退職。

4月1日 芦生研究林長に松岡俊将講師が就任。森林生態系部門に、惣田彩可特定助教、

Cathleen Ludivine Petit 研究員、秦野悠貴研究員が着任。里域生態系部門に八柳哲特定助教、小幡光汰特任助教が着任。海洋生態系部門に小井土凜々子特定助教が着任。北海道研究林に工藤達実特定研究員(学振PD)が着任。

5月1日 瀬戸臨海実験所に安田直子研究員が着任。

活動の記録（2026年1～4月）

シンポジウム等

フィールド研FDセミナー（1月14日、オンライン）
 第13回新しい里山里海の勉強会（1月26日、オンライン）
 京都大学 生態フィールド学系産学学術交流会（2月3日、門真市パナソニック ホールディングス株式会社）
 第3回 SATOYAMA フォーラム 里山・地域コミュニティがもつレジリエンス（イオン環境財団主催、2月18日、国連大学ウ・タント国際会議場およびオンライン）
 第21回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの発信－研究メトロポリスが描く未来－「知の交差点からみる自然 人間 社会」（3月15日、京都大学百周年時計台記念館およびオンライン）
 高校生と大学生による「森里海交流会」（3月24日、京都大学旧演習林事務室）
 高校生森里海研究ポスター発表会および、第10回森里海シンポジウム「身近な自然を見つめなおす～ネイチャーポジティブの実現に向けて～」（3月25日、京都大学北部総合教育研究棟）
 水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ（4月2日、オンライン）
 フィールド研とパナソニック ホールディングス株式会社が、森里海連環学の推進およびネイチャーポジティブの実現に向けた連携を発表（4月3日、フィールド研会議室）

公開実習

海産無脊椎動物分子系統学実習（2月21～28日、瀬戸臨海実験所）

沿岸生態系多様性実習（3月3～8日、瀬戸臨海実験所）
 仔稚魚学実習（3月9～13日、舞鶴水産実験所）

全学共通科目

森里海連環学実習Ⅲ（2月18～20日、芦生研究林）
 森里海連環学実習Ⅳ（3月3～8日、瀬戸臨海実験所）
 フィールドワーク概論～森・里・湖・海と人のつながり～（前期）
 森里海連環学Ⅱ：森林学（前期）
 ILAS セミナー

各施設における主な取り組み

〈上賀茂試験地〉
 里山おーぷんらぼ@上賀茂（1月10日、2月14日、3月14日、4月11日）
 〈瀬戸臨海実験所・白浜水族館〉
 白浜水族館・南方熊楠記念館 共催でオリジナルステッカープレゼント（11月29日～3月31日、4月29日～5月6日）
 白浜水族館企画展「島島展 ～白浜の無人島で100年続けるモニタリング～」（12月23日～6月30日）
 白浜水族館冬休みイベント（12月24日～1月6日）
 「水族館からのお年玉2026」オリジナルカレンダー配布（12月30日～1月3日）
 春休み特別イベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」（3月25日～4月7日）
 〈森林フィールド教育拠点〉
 実習フォローアップ検討会および現地見学会（3月9～10日）

予 定

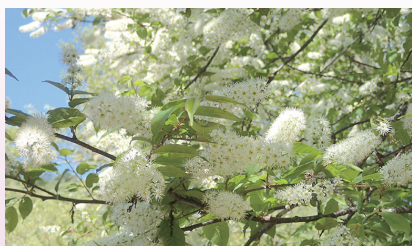
12月23日（火）～6月30日（火）白浜水族館企画展「島島展～白浜の無人島で100年続けるモニタリング～」
 6月6日（土）周南市連携講座（周南市シビック交流センターおよび徳山試験地）

6月13日（土）島島ビーチクリーン（瀬戸臨海実験所）
 6月14日（日）「初夏の花観察会」（北海道研究林標茶区）
 7月22日（水）大浦の魚付き林と海辺の生き物観察会（舞鶴市小橋海岸）

2026年度の公開実習予定については、フィールド研ウェブページをご覧ください。<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/opencourse>

フ ィ ー ル ド 散 歩

—冬から春にかけての各施設及びその周辺の様子をご紹介—



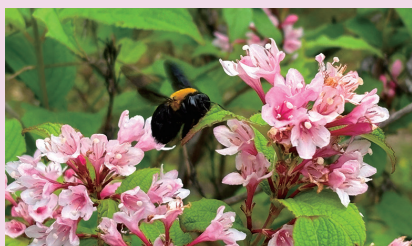
長治谷でウミズザクラが開花中!!
 (芦生研究林)



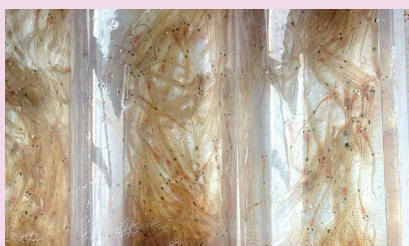
シカの解体（研究林実習Ⅳ）
 (北海道研究林標茶区)



アミガサタケ
 (上賀茂試験地)



キムネクマバチとタニウツギ
 (北白川試験地)



活魚で出荷される「いさざ」ことシロウオ
 (舞鶴水産実験所)



生態フィールド学系の技術交流会で島島を見学
 (瀬戸臨海実験所)

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/zp/nl/news69>

この他にも季節の写真をご覧いただけます。

◆FSERC Newsは、バックナンバーも含めてフィールド研のウェブページに掲載しています。

(編集後記)

皆さんにお知らせしたいことが多すぎて、記事が選べなくて悩ましいです。フィールド研ウェブページもあわせてご覧ください。
 (NT)